2024年度（令和6年度）第3回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

1 日 時

2024年（令和6年）11月15日（金）10：30～12：00

2 場 所

iti SETOUCHI tovio 福山市西町一丁目１－１

3 出席者

(1) 委員（１５名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、大畑友紀委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川亮委員 、吉本伸久委員、冨田直也委員、山口晃弘委員、河上正次委員、小野裕之委員、後藤裕正委員、佐野公章委員、速水優一委員、丸石圭一委員、行迫孝治委員、難波和通委員

(2) 事務局（６名）

(3) 傍聴者（２名）

(4) 随行者（３名）

4 会議の成立

委員１８名中、１５名出席で、委員の過半数が出席しているため、 バス共創プラットフォーム設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立。

5 内容

(1) 説明内容

ア　第２回のふりかえり

イ　路線バス運賃無料ウィークの実施に向けて

ウ　公共交通体系を軸としたまちづくり

エ　路線バス（幹線）を充実させる実証実験

(2) 意見交換

6 資料

・次第

・委員名簿

・資料１ 第３回バス共創プラットフォーム資料

・資料２ 路線バス運賃無料ウィーク チラシ（案）

・資料３ 路線バス運賃無料ウィークアンケート（案）

7 協議内容

(1) 開会

(2) 説明内容

ア 第２回のふりかえり

イ 路線バス運賃無料ウィークの実施に向けて

ウ 公共交通体系を軸としたまちづくり

エ 路線バス（幹線）を充実させる実証実験

・ 事務局から資料１、資料２および資料３の説明を行った。

(3) 意見交換

イ 路線バス運賃無料ウィークの実施に向けて

・ 全国的に事例のないものである。公共交通の取り組みとして捉えるだけでなく、まちづくり全体の取り組みとして捉えるべきであると考える。インパクトのある取り組みであるため、能動的に取り組むことで成功させていきたいと考える。
・ 路線バス運賃無料ウィークの実施時期については、高等学校が授業期間中で、かつクリスマスシーズン目前であり、よい時期であると思う。
・ 平日の通勤時間帯では、積み残しや乗降客増加による遅延の発生が懸念される。突発的な増便などの対応は困難である。
・ 通勤時間帯において新たにバスを利用する人数は、大きな影響はないかもしれない。
・ NEW CASPA（ニューキャスパ）のオープンなど新規施設の開業などのイベントはあるが、郊外部のイベント・施設に比べ、駅周辺の集客力は弱いのではないかと考えられる。
・ 今後このような取り組みが続くのであれば、イベントと合わせて実施することも検討することができる。今回の取り組みで挙がった問題点をプラットフォームで共有したい。
・ バスを利用した観光プランを提示していくことも検討したい。
・ 普段バスを利用しない方へ向けた案内も重要である。バスを普段利用しない方へ向けた、バスの乗り場の案内、バスの乗車方法、行き先の選択肢などの情報を提供するべきである。
・ バスの乗車方法や目的地案内などの情報は福山市HPに集約して情報提供を行っていきたい。
・ GoogleMapとバス路線との連携をすでに行っているが、あまり認知されていないと感じる。バスを利用する際にGoogleMapを用いてルート検索をすることが可能であることを周知することが重要である。
・ 今回の取り組みの効果検証について、12月は交通量の変動が大きい時期であることに留意し、実施期間の前週との比較検討を実施する予定である。
・ 交通量の検証だけでなく、スマートフォンＧＰＳデータを活用し、まちにどれだけの人が来たかといった視点での検証も効果的であると考える。
・ 今後の展開を考え、幹線バスとデマンド交通との連携や増便なども検討していきたい。
・ チラシだけでなく、福山駅前などの乗降場所での案内も重要であると考える。看板の設置など、分かりやすい案内をお願いしたい。
・ 路線バス運賃無料ウィークのチラシに、バスを普段利用しない方へ向けて、バスの乗り方・調べ方を掲載することが望ましいと考えられる。

- 地区別や年代別に必要な情報や、情報の取得方法が異なるため、事務局へ相談いただきたい。
- アンケート設問数は適正であると考えられる。昨年の同時期の交通状況と比較する際に有効な設問を検討し、アンケート調査を実施することが望ましい。
- 広報物（紙）に乗車方法などを掲載するのは予算・期間的に困難であると考える。代替案として、モデルとなるプランを3つほど提示し、それぞれ写真で案内してＳＮＳで発信するといった方法が考えられる。文字だけでなく、写真を活用した広報を検討することが望ましい。
- 紙媒体の広報物については、町内会で配布するといった方法が考えられる。
- バス運賃無料ウィークの期間中は定期券の利用を停止し、整理券の配布のみで乗降確認を行う予定である。
- 道路情報板を活用したＰＲについても検討することが望ましい。国・県・警察管理の情報版を使用できるよう調整いただきたい。
- 委員の方々は利用者の感想をモニタリングしていただきたい。利用者へ聞いていただきたい項目について整理したうえで改めて共有させていただく。

ウ 公共交通体系を軸としたまちづくり

- 国土交通省では地域型のライドシェアを推進しており、日本版ライドシェア（自家用有償）の動きもある。乗合タクシーもあるが、福山市の将来の交通体系としてライドシェアも検討するべきであると考える。
- 幹線と支線の役割を明確に分類することが必要となる。福山市は平地が広域であるため、幹線を明確にすることが重要である。

エ 路線バス（幹線）を充実させる実証実験

- 実証実験は運賃施策だけでなく、大胆な内容を検討するべきであると考える。
- 幹線に求められることは運賃の低減なのか、本数の充実なのか、サービス水準の向上なのか、福山市の住民が求められていることを見極め、実施する必要がある。
- 運転手の担い手不足が問題となっているが、人件費や運転手のブランディングなど事業者だけでなく地域で取り組むことが必要である。
- バスの運賃支払い方法についても柔軟に考えていく必要がある。
- 交通結節点は福山駅と隣接するべきであり、安全性・利便性を確保していくべきである。